

## 深井先生を偲んで

中京大学体育学部

助教授 中山 彰 規

深井先生は、私が高校3年の時に中京商業高等学校に赴任されてきました。それから、高校時代・大学時代そして卒業後も体操競技の指導をしていただきました。先生は、中京大学では、保健体育科教育法・体操論・教育実習などの授業でご教鞭をとられ、また体操競技部の部長・監督として長年私たちをご指導して下さいましたが、平成4年3月15日に肝臓癌のためにお亡くなりになりました。葬儀に際し私は、教え子代表として弔辞を読むことになりましたが、深井先生を偲んで、ここに弔辞を載せたいと思います。

### 弔 辞

先生の突然の訃報に接し愕然とするばかりです。病院にお見舞いにいったとき「あと1年あるからな。4月からは元気になって学校に行くからな。」といったあの言葉が耳にこびりついて離れません。

思えば、中京大学在学中雪の降る非常に寒い日でもジャッケを着ていろいろとご指導して下さいました。夏の暑い日、蒸し風呂のような八事体育館で選手と一緒に、汗をかきながら熱心に体操理論を説明して下さいました。そして口癖のように、「体操は教えられてうまくなるものではない。自分で研究し、自分で道を拓かなければ決して上手にならないものだ。体操に強い愛情をもたなければ、演技にも心が入らないものだ。心が入っていない演技は見ても決して感動を呼び起こすことはないよ。」とある時は厳しく、ある時はやさしくご指導して頂きました。

ミュンヘンオリンピック最終選考会で6名中2名まで先生の教え子が入ったときの、あの喜びと幸せそうな顔、メダルをもって羽田に帰国したときわざわざ出迎えにきて下さり、「よくやった。がんばったな。」と顔をくしゃくしゃにして涙を浮かべながら手を握りあった思い出、本当に先生のご指導とご尽力の賜物と心から感謝しております。

体育館では、いつも口癖のように、「俺にはまだ孫がいないから本当に寂しいよ。」と言われていました。しかし、チーちゃんに子供さんが生まれ、先生が研究室に入るたび、「おい、孫だぞ。かわいいだろ。見てくれ。」と写真を何度となく私たちに見せて下さいました。あの表情、あの得意そうな顔は一生忘れることはできませんし、この世で一番幸せそうな顔をしていたことを思い出します。

私たち数多くの教え子達も、先生から受け継いだ体操指導理念をもって、全国にちらば

り、決して先生の業績を傷つけることなく一体となって受け継いで行くことをかたく信じて疑いません。ただ、私達は先生の指導能力に遠く遙か足元にも及びません。身近で叱咤激励をして頂き、数多くのことをもっと学びたい気持ちでいっぱいです。残念ですが、今となっては先生の教えを胸に、少しでも近づけるよう誠心誠意努力する所存です。どうぞ、安らかに私達の心に長く生き続けて下さるよう、そして先生のご冥福を心よりお祈りし、お別れの言葉とさせていただきます。

合掌。